

北米地域との青少年交流(KAKEHASHI Project - the Bridge for Tomorrow-)

カナダ国訪日団第4陣(リバーデール高校グループ)

訪問日程 平成25年10月19日(土)～10月29日(火)

1 プログラム概要

本プログラム第4陣では、カナダ国オンタリオ州トロントのリバーデール高校(Riverdale Collegiate Institute)の一行25人が、10月19日(土)(日本到着)～10月29日(火)(日本出発)の旅程で来日した。

我が国に対する潜在的な関心の増加、クールジャパンを含めた我が国の強みや魅力などのブランド、日本的な「価値」への国際理解増進、未来を担う青少年同士の相互理解を図ることを趣旨として、東京および近郊においては、サイエンス教育も力を入れているという同校にあわせ、スーパーコンピューター「京」(富士通川崎工場)、三菱みなとみらい技術館、コミュニケーションロボット「ワカマル」(三菱重工)、企業建物内外に野菜や果物を栽培し新たな農業のあり方を模索している「アーバンファーム」(パソナ農園隊)などの企業・企業関連施設見学を実施すると同時に、日本で発明された蠟での食品サンプル作りに挑戦した。奈良県における地方プログラムでは、日本文化へ重点を置き、東大寺、春日大社、法隆寺、薬師寺など世界遺産を巡り、日本宿舎様式の体験として、信貴山玉蔵院、宿坊にて宿泊、大型浴場を体験し、若草山ハイキング、折り紙で作品制作体験といった多角的な側面から日本について学んだ。

パートナー校となった奈良女子大学附属中等教育学校では同校が企画したフレンドシップパーティーにて、オーケストラによる演奏で歓迎を受け、両校がプレゼンテーションを通して、カナダ文化、日本文化、互いの学校紹介を行い、双方の理解を深めた。学校交流では数学、化学、英語、美術、生物から2クラスを選択し、授業に参加することができた。例えば、美術では何か決まったテーマや材料/媒体が決まっているのではなく、生徒が思い思いのテーマや材料/媒体を自身で決定し作品を制作している姿に刺激を受けたようだ。学校交流に関わる学生や一般学生とも交流する機会を得、互いに親交を深め、両校の生徒にとって意義深い一日となった。

2泊3日ホームステイでは、各家庭でプログラムにはない京都、大阪などへの訪問、着物試着などといった体験をするなど、日本人家族の一員として、特別、かつ、忘れられない日々を過ごしたようだ。

東京観光では隅田川クルーズから見える東京の風景を楽しみ、東京タワーから東京を一望し、日本の現代風景を満喫することが出来た。

最後に外務省へ赴き、石原宏高外務大臣政務官への表敬訪問を行った際には、政務官の温かい歓迎の言葉を受けた後、これまでの旅程の思い出と感激を政務官に説明すると同時に多くの参加者が日本への再訪を希望していると口々に伝え、なごやかな雰囲気の中にプログラムをしめくくった。

2 日程

| | | |
|-----------|-------|-----------------------------------------------------------------------|
| 10/20 (日) | 16:30 | 成田空港着 |
| 10/21 (月) | 午前 | オリエンテーション、合気道の講習 |
| | 午後 | 富士通川崎工場、スーパーコンピュータ「京」見学 |
| 10/22 (火) | 午前 | 三菱みなとみらい技術館にてコミュニケーションロボット「ワカマル」、展示室見学、体験コースにて最新技術を体験 |
| | 午後 | パソナ農園隊「アーバンファーム」見学 |
| 10/23 (水) | 午前 | 元祖食品サンプル屋にて食品サンプル制作体験 |
| | 午後 | 奈良へ移動・信貴山玉蔵院、宿坊にて宿泊体験 |
| 10/24 (木) | 午前 | 奈良世界遺産（東大寺・春日大社）見学 |
| | 午後 | 奈良世界遺産（法隆寺・薬師寺）見学 奈良女子大付属中等教育学校にてホストファミリーとの対面式、フレンドシップパーティー・ホームステイ |
| 10/25 (金) | 終日 | 奈良女子大付属中等教育学校にて学校交流・ホームステイ |
| 10/26 (土) | 終日 | ホームステイ |
| 10/27 (日) | 午前 | 奈良ユネスコ青年部イベント、若草山へハイキング |
| | 午後 | 奈良ユネスコ青年部イベント、折り紙で作品制作・東京へ移動 |
| 10/28 (月) | 午前 | 東京観光、隅田川クルーズ・東京タワー見学 |
| | 午後 | 外務省、石原宏高外務大臣政務官表敬訪問 |
| 10/29 (火) | 午前 | 日本滞在中の経験についてのディスカッション |
| | 18:10 | 成田発 |

3 写真

| | |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |
| <p>10月21日 心身統一合気道会による講習 Lecture on Aikido (October 21)</p> | <p>9月22日三菱みなとみらい技術館「ワカマル」見学 Visit to Mitsubishi Minatomirai Industrial Museum, the communicative robot, 'Wakamaru' (October 22)</p> |
|  |  |
| <p>10月23日 信貴山玉蔵院、宿坊へ宿泊 Stay at Shinkisan Tamakurain shukuo (October 23)</p> | <p>10月24日 奈良世界遺産見学 Visit to World Heritage Sites (October 24)</p> |
|  |  |
| <p>10月25日 学校交流 授業へ参加 School Exchange Program, Attendance to a class (October 25)</p> | <p>10月28日 外務省表敬訪問 The Courtesy Visit to the Ministry of Foreign Affairs of Japan (October 28)</p> |

4 参加者の感想

日本のテクノロジーや歴史、その他さまざまなことに非常に興味を持ちましたが、なにより心温かな日本の人々に感動しました。初日から心を開き、私たちを歓迎してくれました。ホスト国である日本の寛大さに心を打たれました。なにより印象深かったのはホームステイです。ホストしてくれたオカダファミリーは自分の家族のように私を迎えてくれました。特にアキヨママには心を打たれました。彼女は私のために 1000 個の鶴を折ってくれたのです。期待をはるかに超えるようなことを私にしてくれました。この旅で会った人々とすばらしい時を過ごすことができました。忘れることの出来ない思い出となりました。帰ったらみんなに経験を話したく思っていますが、その際の私のテーマは、「自分」より「コミュニティ」について考えることです。北米では「私」がすべてで、他者へ関心が向けられません。日本ではみんなが将来や社会を向上させようと努力をしています。例えば、カナダの企業は利益のことしか考えません。しかし日本の企業は社会を変えようとし、人々とともにより良い社会を目指しています。また日本では現代と伝統がパーフェクトなかたちで共存しています。こうした文化が根付いているようです。日本での時間はとても楽しかったです。絶対戻ってきます。(ここより日本語で) じゃね。日本。

[女子 16 歳]

日本の人々の親切さに驚きました。彼らは常に忍耐強く、理解を示してくれます。帰国したらみんなにこの国のすばらしさを伝えたいです。訪れた場所には常に何か見るものがあり、またそれらの場所は安全であると感じました。日本に来たことは夢のようです。日本の食についてもみんなに伝えたいです。日本にはさまざまな食べ物があります。私たち欧米人が考えがちな寿司だけではありません。私はみんなに日本へ行くよう勧めようと思えます。ここは他の世界を学ぶのに絶好の場所です。日本の人々や神社を見ることは良い勉強になると思います。

自分自身を見つめ直すことができ、他者との関わり方を学べるではないでしょうか。日本人の人生観は本当にすごいです。欧米は日本から学ぶべきだと感じました。

[女子 17 歳]

日本に初めて来ました。カナダ人も親切だと思いますが、日本人とは比べものになりません。観光地やレストランへ行き、講義を受けるたびに思い浮かぶ言葉がありました。「情熱」です。この「情熱」をカナダの人々に伝えられるのではと考えています。カナダでは「Sorry」という表現が頻繁に使われ、そのため、この表現がステレオタイプ化しています。—「カナダ人はこの表現を使いすぎです。」

私の国とは対照的に、日本の人々は「Thank you」もしくは「Please」を頻繁に使っていました。これらはポジティブで、親切な表現です。これら表現には忠誠心やこの国の人たちを気遣うという彼らの姿勢に反映されているのではないのでしょうか。カナダと違い、何も謝ることはなかったです。もうすぐカナダへ帰りますが、思いつくのは「Thank you」

だけでした。寺院、山々、新幹線、畳、他の小さなことにもありがとう、です。おかげで私はこの美しい国に情熱的になりました。特に自分のためだけの利益ということの空虚さに気づき、グループとしての利益を求めていくことに情熱を注ごうと思いました。例えば、富士通本社では各発表者が彼らの技術について熱心に議論するそうです。カナダとはまったく違います。日本の富士通社員は毎年いくらお金が手に入るかが優先ではなく、どうやったら日本や世界を助けられるかを優先に考えていました。この姿勢、この長く続いている力強い姿勢は私たち、懸け橋プロジェクト参加者をどこかへ飛ばしてしまいような勢いでした。自分たちがいかにして日本で楽しむのではなく、どうしたら他の人たちが日本で楽しんでもらえるかということを考えました。そう考えた結果、結局私たちみんなが楽しむことに集中することとなったのですが、私たちが互いに興味を持ち、私たち自身に情熱を持つことが出来ました。日本や人々は美しかったです。私の日本は情熱そのものです。

[男子 16歳]

日本訪問で一番感銘を受けたのは宿坊に宿泊したことです。体験する前からこれにすごく興味を持だろうことは分かっていました。軽く捉えてはいけない経験であるとも思っていました。しかし、これほどまでに私たち自身の心が清められ、人生が変わるような感覚を味わうとは予想していませんでした。まず夕食で、みんながここは特別な場所であることに気づいたと思います。畳、花々、芸術品や階段からも特別な場所であることが分かると思います。

バルコニーから、月の光で見える山の景色は本当にすごかったです。でもこれはこの寺院のハイライトではありません。公共浴場です。(女性の先生も含め)女の子たちみんなで「温泉」スタイルのお風呂に入りました。すっかり裸になって温かいお風呂に入るのです。私たちは不安でしたが、みんなで乗り越えたこと、お互い助け合い、(この旅を通して)成長し、お互いのことを学ぶことができたこと、強く絆ができたこと、私たちは誇りに思います。入浴後、私たちは畳の部屋でパジャマに着替え、一緒に笑い、泣きました。私は正直、ここの空気に何かがあるように感じました。お互いの心のつながりが、お寺と共鳴しているように思いました。みんな少し感情的になっていました。背筋に震えが走るのを感じました。このお寺では、私たちがトロントで誰であったのかを忘れ、言葉通り、悟りを得て、別の人間に変わりました。だから宿坊が大好きになり、宿坊での経験がとても気に入ったのだと思います。

[女子 15歳]

日本について感動したことはいくつもあります。第一に、日本の人々のすばらしいホスピタリティーです。行く先々で会う人々は皆親切で寛大な心を持っていました。私たちの多くが、お別れのときになると涙を流していました。また日本人は互いを尊敬し、支えあっていることもとても好きです。カナダでは、知らない人と目が合うとすぐさまに避けようとします。日本では微笑んでくれ、相手への敬意とともにうなずいてくれます。この異なる文化がおもしろかったです。この点に関しては、日本の方が好きです。帰国したら出来る限り多くの人に写真を見せながら、日本での話をしようと思います。本当に楽しかった

たです。こうした機会をくれた日本政府に感謝の気持ちでいっぱいです。

(日本語で) どうもありがとうございました！

この訪問で最も感銘を受けたのはなによりも日本人です。親しみやすい雰囲気を持つ日本人はとても注目すべき、すばらしい人々です。観光地も歓迎ムードが感じられ、日本人の観光客も知らない人とは思えないような感じがしました。私たちは挨拶をし、一緒に写真も撮りました。親しみのある彼らの気質を見て驚きました。カナダに帰りたくないです。でもカナダに帰国したらみんなに自分の経験したことを話そうと思います。日記をつけておいて良かったです。細かい点もみんなに言うことができます。それだけではなく、ビデオをつくろうと思います。自分の視点からの日本を見せたいからです。この旅は今までで一番すばらしい経験でした。こんなことは前に経験したことないと思います。私たちにこの機会をつくってくれてありがとうございました。どうかこの懸け橋プロジェクトを続けてください。私たちができた経験をもっと多くの人もできるようチャンスを与えてあげてください。このプロジェクトは申し分のないものでした。